

≡≡≡ どちらでも正しいから、 決断できない。

AかBかという選択を迫られた時に、「Aも正しいけれども、Bも正しいんだよね」と迷う人は、決断力のない人です。

Aは正しくてBは間違っているという時は、なんの迷いもなく、Aを選ぶことができます。

AもBもどちらの言い分も正しいからこそ、切り捨てる決断が必要になるのです。

福岡ドームの経営で、100億円近い借金を大幅に圧縮して黒字化させた高塚猛福岡ダイエーホークス球団社長は、「正しいことよりも大切なことを選ぼう」と言っています。

世の中に正しいことはたくさんあります。

どちらが正しいかと考えていると、いつまでも決断できず、もたもたして行動が遅

第1章 決断は、「好きか嫌いか」で決めている。

くなっています。

「どちらが正しいか」ではなく、「今どちらが大切か」と考えるのです。

選ばれなかった側も正しいのです。

でも、「今」という優先事項を考えたら、AかBかがはっきり決められます。

いつ決断しても同じ答えが出るわけではありません。

決断には、「今」という日付が大切です。

明日判断したら、きつと違う結果になります。

選ばれなかった側は、否定されたわけではありません。

人間は、肯定するのは精神的にラクですが、否定するのはプレッシャーを感じます。

たとえば、AさんとBさんのどちらを雇つか考えた時に、Aさんを雇うことにしたとします。

Bさんを雇わないということは、Bさんを否定してしまうことになります。

人間が人間を否定することはできません。

「Bさんに悪いことをしてしまったな」と思うから、どちらにしようか迷ってしまっ
のです。

2人のキャラクターが違っているのは当然です。

だからこそ今、あなたの会社には、Aさんのほうがより必要だと考えたのです。

たとえば、限られたお金でAとBのどちらを買おうか迷ったとします。

どちらもあるあなたの人生に役立つモノかもしれない。

でも、今必要なモノは何かと考えたら、どちらか一方に決めることができます。

決断には、常に「今」という日付が大切です。

そうすると、順位がつけられます。

選ばれなかった人の人格を否定したり、そのモノを否定しているわけではありません。

だから罪悪感を持つ必要はありません。

罪悪感を持つと、決断ができなくなります。

あなたが「正義の代表」である必要はまったくありません。

どちらが正しいというのは、人間が決める行為ではありません。

みんな正しいのです。

世の中で一般に間違っていると思われていることでも、正しいのです。

常に「今」どちらが大切かと考えればいいのです。

「大切」と「大事」という言葉がありますが、「大事」という言葉はものごとを大げ

さに考えすぎてしまいます。

スピード
決断術

その②

「正しいこと」より、
「大切なこと」を選ぶ。

「あれも大事、これも大事」と言つと、決断ができなくなります。
決断をするためには、大げさに考えてはいけません。
「どちらが大切な」という身近な判断基準でいいのです。

寝坊した時は、目覚ましのことは忘れる。 後悔が、決断を遅らせる。

私は先日、撮影の日の朝、寝坊をしてしまいました。

目が覚めたら、起きなくてはいけない時間をすでに過ぎていました。

そういう時、人間は「どういうこと?」と、自分にツッコみます。

「どうして目覚ましが鳴らなかったの?」と悩みます。

その時、私は、「電車の時間は全部調べてある。朝なら道が空いている。タクシーで行けばこれだけ時間を稼ぐことができます。ここで追いつくことができます。大丈夫大丈夫」と、とっさに自分で自分に言い聞かせました。

これが、決断力です。

すんだことをクヨクヨと悩んではいけません。

決断の鈍る人は、すんだことをクヨクヨ考えています。

「なんで自覚ましが鳴らなかつたのか？」と考えても、問題解決にはなりません。「なんで自覚ましが鳴らなかつたのか？」といくら考えても、早く仕事に行くことはできません。

家族に「なんで起こしてくれなかつたんだ！」と言ってケンカをしても、ムダです。自分がムシヤクシヤしてくると、次に何かが起こった時の判断力がなくなり、判断を間違つてしまいます。

「大丈夫、大丈夫」と、まず冷静になる。

そうすると、ここは電車にしたほうがいいか、タクシーにしたほうがいいかという判断を、間違わずにすることができます。

たとえば、1つのミスがあつた時に、そのミスをクヨクヨ考えてしまうと、2番目の3番目のミスを誘発していきます。

決断力には、2つの意味があります。

すばやく決断をすること

できるだけ適切な判断をすること

過ぎたことにクヨクヨしてしまうと、決断するスピードも落ちるし、適切に判断できず確率も下がってしまいます。

トラブルに巻き込まれた時、人間は決断力が鈍ります。

巻き込まれて起こってしまったトラブルは、早く忘れることです。

リカバーするためにはどうしたらいいかということに全力を注ぐかどうかで、行動力に差がついてきます。

1人で動いている時はまだいいのです。

2人以上になると、すんだことに対してのエネルギーロスがますます大きくなるのです。

スピード
決断術

その③

後悔は、早く捨てよう。

物理的な理由より、
精神的な理由を優先する。

タクシーでテレビ局へ行く時に、ちょうど祝日で大渋滞が起こっていました。タクシーを降りて歩くとしたら、目的地までだいたい何分ぐらいかかるかが予測できません。

タクシーに乗り続けていると、着くまでに何分かかるかわかりません。不思議なことに、タクシーを降りた瞬間にタクシーが流れ始めたりします。

これが、マーフィーの法則です。

そういう時にどうするかも、1つの決断です。

この小さな決断が、大きな決断をする時に必ず役に立ちます。

私は、迷わずタクシーを降りて歩きます。

私が決断する時は、「精神衛生上、いいほう」を選びます。

降りて歩いた時点で、もう間に合いません。

歩くとき、そこから目的地までだいたい20分かかる。

あと10分で着かなければいけないので、10分遅れになるといことがわかります。

携帯電話で「10分遅れます」と連絡できます。

タクシーに乗ったままでは、「今、道が混んでいて、あと何分後に着けるかわかりません」という連絡しかできません。

そうすると、タクシーの中でずっとイライラしなくてはいけません。

それよりは、歩いて10分遅れることが確実にわかったほうがいいのです。

先方に連絡がとれたら、あとは1分でも早く歩こうと自分の努力で解決することができます。

自分の努力で解決できることは、精神衛生上、ストレスを感じません。

タクシーに乗っていると、自分がどんなに頑張っても、道を速く流すことはできません。

時間を短縮できないと、ストレスがどんどんたまっていきます。

たとえば、同じ10分の遅れで現場に着くとしたら、歩かないでタクシーに乗って来たほうがラクです。

でも、外を歩いているほうが、体は動かしているけれども、精神的にはリラックスしています。

そうすると、仕事がいざ始まった時に、ストレスなく始めることができます。

精神衛生上、よくない決断をしてしまうと、その後の流れをすべて悪くしてしまします。

AとBとのどちらを選ぶかは、選んだ後、自分の気持ちどちらがハッピーか、ストレスが残らないかということ基準に考えます。

これには個人差があるので、自分なりの基準をつくっておくといいでしょう。私の基準は、シンプルです。

渋滞の時、タクシーで行くよりは、明らかに歩いたほうが速いのです。

エレベーターを待っているよりは、階段で上がったほうが速いのです。

人によつては、体を動かすよりは乗っていたほうがラクだと言います。

どちらが正しいかは、個人の判断で違ってくるのです。

どちらも正しい、どちらも間違っているとは言えません。

ただ、あなたがもしストレスをためて仕事に来たら、それは間違っています。

ほかの人に迷惑がかかります。